

季節が変わると、新しい洋服がつつい欲しくなります。環境負荷を考え古着の利用が良いのはわかっているけど、新しいお洋服も欲しくありませんか？そんな時は、より環境に配慮した製造方法や素材を使ったものを購入してみるのはいかがでしょうか？

環境に配慮した綿「オーガニックコットン」

肌触りがいいコットンは、原料となる綿花の栽培時に農薬の使用が多く、問題になっています。農薬投入量を米国の面積あたりの農産物と比べると、とうもろこしの約2倍、大豆の約3.5倍になります。生産地は途上国も多く、生産者の農薬中毒症状や、魚など生態系への影響が大きいとの報告があります。この問題を解決するために、農薬・肥料の厳格な基準を守って育てられた綿花を使用しているのが、オーガニックコットン製品です。



リサイクル繊維

ポリエステルやナイロン製の衣類やPETボトルは、回収後、科学的に分解し化学原料に戻したものを再合成して繊維にすることができます。(ケミカルリサイクル) 帝人ファイバー(株)では、PETボトルやポリエステル繊維製品からポリエステル原料を、東レ(株)は、使用済みナイロン繊維製品からナイロンを製造すると、原料からよりも70%のCO₂排出量削減になるそうです。今のところ制服などへの使用が多いようですが、一部の企業にも製造、販売が広がってきています。



製造に水使用量を抑えている衣類

木材の繊維を薬剤処理したりヨセル(テンセル)は、レーヨンに似た素材です。中でも成長の早いユーカリを原料にした物は水使用量がコットンより少なく、使用した溶剤も100%近く回収されているそうです。

麻の仲間ヘンプは、水消費量がコットンの1/4以下で、シルクやカシミアとの混紡により、コットンの代替素材として注目されています。

デニムメーカーのLiva'sは、従来の製法より水の使用量を約28%削減した商品「Water<Less(ウォーターレス)」を販売しています。



新しい洋服を購入する時に、ファッション性や着やすさ、価格などいろいろな選択肢がありますが、環境に配慮した製品を選ぶこともこれからは視野に入れていきたいですね。

<参考>:日本オーガニック・コットン協会HP 帝人(株)HP 東レ(株)HP ETHICAL FASHION JAPAN HP 一般財団法人廃棄物循環学会HP

<<Yっち>>

エコけんニュース 年3回発行へ

広報紙「エコけんニュース」は、1999年11月から14年4か月の間ひと月も欠かさず発行し続け、今号で176号になりました。「よくここまで毎月発行し続けたね。」「その努力すごいね。」とお褒めいただくこともありますが、そのエコけんニュースを2014年度より、思い切って、年3回の発行にペースダウンすることにしました。私たちの活動とともにあったエコけんニュースも、ひとつの節目を迎えたと思うからです。

その背景のひとつには、フェイスブック(Fb)などソーシャルネットワークシステム(SNS)の浸透により、リアルタイムで頻りに活動を広報できるようになったことがあります。Fbへの投稿は、ホームページにも反映されていますので、SNSを利用されない方もご覧いただくことができます。SNSは、世界規模で情報伝達のあり方を大きく変え、社会を変える力を持つほどになりましたが、私たちエコけんの広報にも影響を受けました。

しかし、エコけんニュースは、活動のスタンスや方向性を問い続けてくれる存在であることには変わりはありません。実際には、毎月順番に巡ってくる原稿書きは、自分たちのつたない文章力を鍛えてくれるものでもありました。どうやったら伝わるのか、構成や単語の並び、文字数さえ頭を悩ました。その作業は画像と短文のFbでは培いがたいものだったかもしれません。

これから年3回(予定では6月・10月・2月)に発行頻度が下がりはしますが、エコけんニュースの役目やスタンスはこれまで通りです。私たちの思いや実践活動、そして環境情報・皆さんへのインタビューなど、1回あたりの紙面は増えそうです。なお、「未来を創ろうインタビュー」は、隔月で実施し、随時ホームページにアップの予定です。



エコけんニュースはこれまで以上にじっくり作成することで、さらにパワーアップした広報にしていきたいと思っていますので、引き続きご愛読の程、よろしくお祈りします。

<<S>>



エコけんホームページにはFbの小窓がついています

未来を創るインタビュー

No.36 ふくま郷づくりの会

緒方 義幸 氏

福津市「ふくま郷づくりの会」の緒方義幸さんに、お話を伺いました。

緒方さんは、福津市の海岸沿いにある松林の再生保全に取り組んでいらっしゃいます。数年前まで雑草に覆われ、ジャングルのような松林の状態を再生するため、行政に働きかけることから始められたそうです。そして市の松くい虫対策が進められた後、地域住民による再生保全活動が始まりました。松林の再生保全には、継続的な人の手が必要ですが、高齢者が多く、その確保が大変だそうです。そこで、平成24年度からは中学生の参加を呼びかけ、除草作業や松葉かき以外に看板や巣箱の作成に関わってもらったそうです。中学生の力を得る事で、保全のスピードが進むと同時に新しいアイデアももたらえたそうです。



Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. この地域の「夕陽」と「海岸松林」を市民が自然の美しさのシンボルとして認識し、学び、保全するための必要な行動をとることです。

Q. そのためにご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

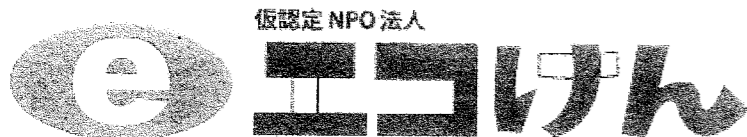
A. 海岸松林は人工林で、人の手入れが必要です。地域を守ってきて、今後もその役目を果たすべく、再生・保全活動を地域の人達や子どもたち(特に身近な福間中学校)と継続して共に行うことを心がけています。

未来を創るメッセージ

一人の力は知れたもの。
みんなの知恵と力で少しづつ。

インタビューの後、近くの福間海岸の松林を案内していただきました。数年前から比べると見違えるように美しくなり、散策したくなるような景色に「ふくま郷づくりの会」や地元地域の人達の活動成果が垣間見えました。また、つなぎ役の緒方さん達が声をかけて、継続できる仕掛けを考えられるなど、パワーにあふれておられました。皆さんも機会があったらぜひ福津の海岸松林を散歩してみてください。中学生が描いた可愛らしい道標などを見てください。きっと地域をあげて、松林が大切に守られている事を感じられるはずです。

《Yっち》



仮認定 NPO 法人

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13
TEL/FAX 092-944-6450 [mail]eco_ecoken@ybb.ne.jp
[HP]http://www.10.ocn.ne.jp/~ecoken

本年度の取り組み ～ふりかえり～

エコけんは、持続可能な社会に向けた担い手づくり、地域づくりをめざし、次のような活動に取り組んでいます。



今年度のトピックスは、ふたつの事業にまたがる「しろくまプロジェクト」に取り組み、皆さんの協力や賛同を得られたことです。その活動を通し、まだまだ、進化していけそうな伸びしろを感じた一年でもありました。

これからもエコけんをどうぞよろしくお願いいたします。

《S》



いいことみつけ! ～雨水を利用～



春めいて、庭も畑も草ぼうぼう。 抜いたら土のおまけつき。
私は、草は乾燥させてからゴミ出しし、水は雨水タンクを利用しています。

《Kまま》

次回のぼらんず ※ぼらんずとは、毎月のボランティア清掃です。



4月 21日 (月) 13:00~ 1時間程度 古賀市天神1丁目周辺

詳しくはお問合せください

雨天中止

